

G . F . ヘンデル

メサイア (救世主)

ウォトキンス・ショウ版 全曲

指揮：三澤洋史

コンサート・ミストレス：北川靖子

独唱：

合唱：浜松バッハ研究会合唱団

ソプラノ 山田美津子

アルト 佐藤安子

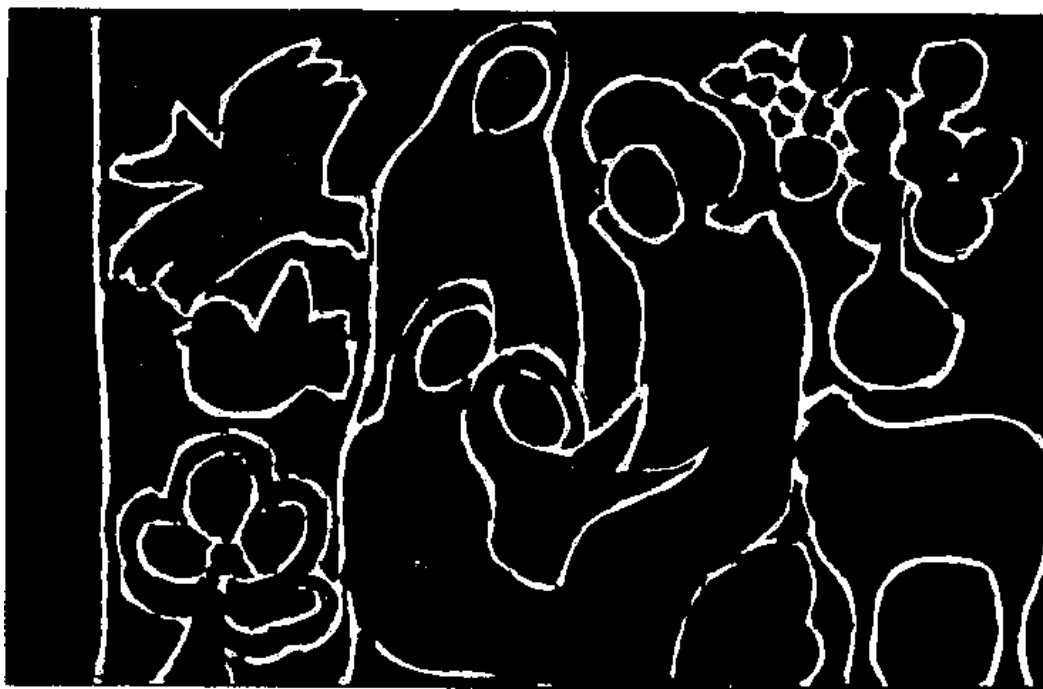
合奏：浜松バッハ研究会管弦楽団

テノール 西垣俊朗

バス クラウス・オッカー

日時：1993年 3月21日 (日) 2時30分開演

会場：浜松市福祉文化会館



画・今村英男

主催：浜松バッハ研究会

後援：浜松市教育委員会

御挨拶

本日は浜松バッハ研究会「メサイア」演奏会に御来場いただき誠にありがとうございます。

1985年にバッハ生誕 300年を記念して活動を開始した私共ですが、早いもので8年が経ちました。この間「マタイ受難曲」「クリスマス・オラトリオ」「口短調ミサ曲」そして昨年の「ヨハネ受難曲」と、バッハの4大宗教曲の演奏会を中心に、教会やお寺、ホール等でのコンサートへの協賛出演をも通じて、バロック宗教曲・合唱曲の演奏を続けてまいりました。

今回はバッハと同年生まれのヘンデルの作品を取り上げました。昨年はこの曲が初演されてから250年という記念すべき年でした。この間モーツァルト版のようにフルオーケストラに近い大編成の演奏をはじめ、100名を越える合唱による演奏等により、多人数による大曲のイメージが一般的となりましたが、近年の古楽器による演奏の研究により、オリジナルな形に近いバロックらしい小編成の演奏も脚光を浴びるようになりました。私共も三澤先生の指揮のもと、後者の方式に近い形で、明るくのびやかにこの曲を歌いたいと思います。どうぞ最後までごゆっくりお聞きください。

さて、浜松駅前では「音楽の街」のシンボルとも言えるべきアクトシティの建設が急ピッチで進められ、日毎に期待が膨らんでまいります。素晴らしい演奏家達の演奏を目の当たりにできる喜びと共に、我々アマチュア演奏家にとっても本場ヨーロッパのコンサート会場以上の音響・雰囲気の中で演奏できる感動をもたらしてくれるようなホールが地元にはできることは本当に励みになります。私共もより一層精進し、バッハを中心としたバロック声楽曲をずっと歌い続けて行きたいと思いますので、今後も私共の活動を御支援くださいますようお願いいたします。

最後になりましたが、本日御来場くださいました皆様、常日頃より私共の活動を支えてくださっている皆様方に、会員一同心から感謝いたします。

浜松バッハ研究会：代表 早川徳次

***** 上演曲目 *****

ジョージ・フリデリック・ヘンデル作曲

George Frideric Handel (1685 ~ 1759)

オラトリオ「メサイア（救世主）」

M E S S I A H HWV56

第1部 第1～21曲

休憩

第2部 第22～44曲

休憩

第3部 第45～53曲

指揮：三澤洋史

独唱：ソプラノ 山田美津子
 アルト 佐藤安子
 テノール 西垣俊朗
 バス クラウス・オッカー

合唱：浜松バッハ研究会合唱団

ソプラノ	井浦芙蓉子	佐地多美	鈴木真紀	陶山恵子	寺田朱美	丹羽多美子	
ソプラノ	今井久子	今村陽子	中村修子	早川実花	日置すみれ	守田牧子	
アルト	生駒純子	伊藤系り	上野都枝子	木村洋子	木山道子	小堀祥子	堺美津江
	佐々木純子	野寄友佳子	袴田純代	水谷逸子	森春子		
テノール	赤尾遵洋	伊藤宣郎	高原慎一	戸島準一郎	丹羽哲也	早川徳次	村澤均
バス	青木繁光	生駒修治	内海直人	大坪渡	小川貴範	小貫勇作	小島良雄
	鈴木保實	名倉英治	萩野潔	和田史和			

合奏：浜松バッハ研究会管弦楽団 コンサート・ミストレス - 北川靖子

第1 ヴァイオリン	北川靖子	生駒尚子	小沢規子	鈴木理江	中林尚之	山森直樹
第2 ヴァイオリン	木村英道	釘本英範	小杉美砂子	末田良	徳弘太郎	
ピオラ	吉川紀彦	秋元紀子	鈴木絵理	鈴木洋之		
チェロ	神農清志	川道順	山内明			
コントラバス	田邑元一					
オーボエ	清水恵土	和久田益代				
ファゴット	曾布川利貞					
トランペット	R.マナーズ	庭田俊一				
ティンパニ	西原徹					
チェンバロ	近藤里枝					
オルガン	稲垣順子					

主な出演者のご紹介

指揮：三澤洋史 群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業。声楽を原田茂生、中村健の両氏に師事。当初よりオペラ、オラトリオ指揮者を志し、作曲を島田謙、増田宏三の両氏に、そして指揮を故・山田一雄氏に師事した。1981年渡独、ベルリン芸術大学指揮科に入学。指揮をH.M.ラーベンシュタイン氏に、オペラ、コレペティ法 (Kor-repetition：独) 及びスコア・リーディングをR.ヴォルフ氏に師事。1984年同大学を首席で卒業。1984年度カラヤンコンクールにファイナリストとして入選。帰国。1985年「東京の夏」音楽祭でデビューして以来、日本では数少ないオペラ・オラトリオ指揮者として活躍している。特に宗教曲の分野ではバッハに深く傾倒しており、「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」「クリスマス・オラトリオ」などを全て暗譜でレパートリーに持つ。また二期会合唱団指揮者としてNHK交響楽団、都交響楽団、読売交響楽団をはじめ都内の殆どのオーケストラの定期演奏会の合唱を手がけており、この分野での評価は極めて高い。更にミュージカル台本、作曲、演出を自ら手がけるなど、声楽を伴うオーケストラ作品の全ての分野において活躍している。現在、東京芸術大学、京都教育大学講師。二期会指揮者。コーロ・アンダンテ、セント・ミカエル・クワイヤー、日本興業銀行合唱団、名古屋バッハ・アンサンブル・コア、浜松バッハ研究会の常任指揮者。

ソプラノ独唱：山田美津子 1987年、国立音楽大学声楽科卒業。佐藤安子、大平繁子、栗林義信の各氏に師事。57回読売新人演奏会、1988年東京文化会館推薦音楽会、1989年日伊声楽コンクールソ入賞演奏会などに出演。1990年東京音楽大学研究科オペラ・コース修了。1991年浜松市民オペラ「カルメン」のミカエラ役でデビュー。1993年浜松市民オペラ「椿姫」のピオレッタ役での出演が予定されている。現在、東京音楽大学助手、藤原歌劇団準団員、日伊協会会員。

アルト独唱：佐藤安子 東京学芸大学特設課程音楽科卒業。秋元雅一郎、ブランコ・チュベルカ、伊藤純子の各氏に師事。浜松において各種のコンサートに出演。浜松バッハ研究会の演奏会においては、バッハの「マタイ受難曲」や「クリスマス・オラトリオ」のアルト・ソロに出演。静岡県演奏家協会会員、浜松市民オペラ協会理事。現在信愛学園高等学校音楽科講師。

テノール独唱：西垣俊朗 大阪音楽大学大学院修了。在学中より宗教曲に手を染め、カンタータ、オラトリオの演奏には欠かせないコンサート歌手として活躍。特にバッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」等の“エヴァゲリスト歌い”として高く評価されている。1978年、79年、85年、名テノールE.ヘフリガー氏と「マタイ受難曲」で共演。1984年と85年には日本オラトリオ連盟のソリストとしてヨーロッパ各地で演奏し好評を博す。またアルカディア協会の1989年夏のシンガポール演奏旅行と1990年夏のシンガポール、ヨーロッパ演奏旅行のソリストとして各地で好評を博した。オペラでは1976年、東京オペラ・プロデュース公演のロッシーニ「オリー伯爵」でデビューし、以後「放蕩息子」「スペインの時」「セヴィリアの理髪師」「ビヴァ・ラ・マンマ」などに出演。また関西二期会を代表するリリック・テナーの一人として「魔笛」「ドン・ジョバンニ」「セヴィリアの理髪師」「真夏の夜の夢」「こうもり」「コシ・ファントウツテ」などの主役を務めている。昭和59年度神戸市文化奨励賞受賞。浦山弘三、E.ヘフリガーの両氏に師事。関西二期会会員、神戸音楽家協会会員、日本シューベルト協会同人。現在、大阪音楽大学、和歌山大学講師。アルカディア室内合唱団副指揮者・ヴォイストレーナー。

バス独唱：クラウド・オッカー 1923年、ドイツ・ブレーメンに生まれる。ハンブルク音楽大学卒業。以後コンサート歌手として、ドイツはもとより、カナダ・日本・インドネシア・香港・インド・パキスタンなど世界各地にてコンサートを行う。ジュネーブ国際音楽コンクール銀賞受賞。カリフォルニア・サンホセ大学客員教授、中国北京音楽大学および上海音楽大学客員教授、ハンブルク音楽大学教授を経て、現在、愛知県立芸術大学客員教授。ドイツ・グラモフォンにて、CD「美しき水車小屋の娘」「冬の旅」を収録。

コンサート・ミストレス、ヴァイオリン：北川靖子 幼少より父に手ほどきを受け、後 W. シュタフオン・ハーゲン教授に師事。東京芸術大学卒業後、ウィーン国立アカデミーにて F. サモヒール、F. ホレチェックの両教授に師事。1975年、同大学を全教授一致の最優秀賞で卒業。1976年から1984年までハンブルク交響楽団、ハンブルク室内合奏団のコンサート・ミストレスを務める。1985年12月からピアノの北川暁子と「ドゥオの夕べ」を開催。チェロの千本博愛、北川暁子とピアノ三重奏団セルヴェ・トリオとして演奏活動を行っている。現在、桐朋学園大学非常勤講師。

チェンバロ：近藤里枝 国立音楽大学ピアノ科卒業。ピアノを属澄江、荘良江の各氏に師事。チェンバロに於いてソロ活動・アンサンブル活動を日本・ヨーロッパ各地にて行い、ローザンヌ紙評にてコンティヌオ奏者としての称賛を受ける。古楽器だけの演奏活動やバッハの「マタイ」「ヨハネ」両受難曲、「口短調ミサ」、カンタータ、モンテベルディの「聖母マリアの夕べの祈り」、ハイドンの「天地創造」など、合唱とのアンサンブル活動も多い。

オーボエ：清水恵士

トランペット：ロジャー・マナーズ

チェロ：神農清志

オルガン、浜松バッハ研究会伴奏者：稲垣順子 名古屋音楽大学大学院修了。東京・名古屋・浜松における新人演奏会に出演。1990年浜松福祉文化会館にてリサイタルを開催。各種コンサートに出演。ピアノを下村和子、青山三郎の各氏に師事、パイプオルガンを住山玖爾子氏に師事、チェンバロを中川洵氏に師事。

浜松バッハ研究会管弦楽団 浜松室内楽愛好会、カペラ・アカデミカ、浜松バロック・アンサンブル、ヤマハ吹奏楽団などから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらずレベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

*本日使用するパイプ・オルガンは高山市在住のオルガン製作家、田尻隆二氏の手によるコンティヌオ・ポジティブです。

微笑みのイエス：三澤洋史

浜松でバッハの「ヨハネ受難曲」を公演した時であった。ホテルの近く的美術館でシャガール展をやっていた。本番当日の朝、私は散歩がてら出かけた。とりわけ私の心を打ったのはサーカスを題材とした版画であった。シャガールはサーカスの中にある種の特別な感情を持っていた。「常々悲劇的な人間として道化役者、アクロバット、俳優のことを考えてきた私には、彼等は宗教画に描かれる人物たちと密接な関係があるように感じられるのです。今でも尚、磔刑図や他の宗教画を描く時には、サーカスの人々を描く時に感じたのと同じ感情が湧き起こって来るのです。」

サーカス。その熱狂と悲しさ。きらびやかな陳腐さ。死と隣り合った歓喜。この究極的な非日常空間をシャガールが宗教的と感じ、キリストの受難と結び付けたことに何の不思議もない。彼のブルーは靈性を表わし、赤は昇華された悲劇性をかもし出し、私の胸に沈潜して「ヨハネ受難曲」へのインスピレーションをかきたてた。私は指揮をしている間ずっと想っていた。サーカスが受難に似ているのではなくて、受難というものが、その本質においてサーカスなのだという事を・・・・・・

イエスの事を想う。イエスの前に広がる孤独感を、無力感を想う。偉大なる光がこの地上に降りる。それが悲劇の始まり。およそ救世主と名の付く者なれば、その使命とは全人類の救済であろう。だが現実はどうだ。仮の宿にしかすぎない肉体をおのれ自身と思ひこみ、その肉体から出る様々な欲望の充足を生涯の目的とし、争ったり、奪いあったり、妬んだりしながら浮草のごとき人生を送っている人々の群れ。そのただ中であって神の道を伝えて行くとは気の遠くなるような作業であると感じたに違いない。けれどやらねばならない。そのために地上に生まれたのだから。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」こう言いながらイエスは宣教を開始した。ペテロやヨハネをはじめとする弟子達を次々と従えてイエスの教団は急速に発展する。

神は愛である。愛とは目に見えないものである。地上的なる欲望を超え、全ての価値観を超え、人々の中に真なる幸福と平和を与える新しき価値観である。

愛は光である。人々を内側から輝かすエネルギーである。愛の本質は与える愛にあり。この世的に言えば損をする生き方でもあろうが、与えれば与えるほど泉のように溢れて人を生かしめる不思議な力でもある。

愛は風である。人から人へと吹きぬけて行き、潤いを与え、さわやかさを与えるそよ風である。風が吹き渡ることをやめたら風でなくなるように、愛も人から人へと伝わることをやめた時に、もはや愛ではなくなる。

人は目で見え、手で触れることのできるものに、より多くの実感を持ってしまいが、愛に生きることに目覚めた者にとっては、もはや地上的なるものは愛をこの世に具現化するための手段でしかない。愛のみ実在。人はその時、世にありて世を超える。この心理を知る者に「天の御国は近づいた」わけである。

ではそのためにはどうしたらよいのか？ それが「悔い改め」である。愛を拒むものは何か？ それは「世のしがらみ」であり「かたくなな心」である。愛の太陽は常にすべての人々の上に輝いている。それを遮っているのが心のくもりである。これを晴らせば、どんな人でも、あの明るく暖かい太陽の光を取り戻すことができる。悔い改めとは言葉を変えて言えば反省でもある。それは素直な心、無垢なる心を取り戻す行為でもあり、自分が何者なのか、自分の使命とは何なのかを悟る行為でもある。

イエスの説く愛の教えは当時の社会にとっては画期的な教えであった。それに加えて、彼はこの世を超えた世界の実在を示すために、あらゆる種類の奇跡を行った。目や耳の不自由な者を癒し、悪霊を追い出し、不治の病をたちどころに癒す。イエスの向かうところ、常に驚嘆のどよめきがあり、感謝の渦が巻きおこる。けれどもイエスの目はもっともっと遠くを見ていた。全世界にこの福音を！ 全人類の救済を！ 時間がない。救世主としての自分の人生は限られている。この情熱の前に、しかし現実は何と遅々とした歩みのだ。人よ、皆目覚めよ！ はやく！

そこにイエスの予期しないことが起こってくる。敵である。イエスの教えを理解できずに訝がる者に加えて、これを嘲る者、否定する者、そしてイエスの救世運動を積極的に邪魔しようとする者達が現われてくる。イエスは心の中で叫んだに違いない。何故だ！ どうして行く手をふさごうとするのだ！ おまえ達のために私はこの世に来たのではないか！

闇深き世に光を灯すためにイエスはやって来た。それは神のへりくだった姿。栄光の世界からわずか2メートルにも満たない不浄なる肉体に宿る。それだけだって大変なことなのに、その偉大さもわからず、これを攻撃する者がいるなんて！ それほどに愚かなのか、我々人類とは・・・

しかし、考えてみるがよい。人は個々の小さな過ちに対しては容易にこれを見つけられるだろう。けれど時代全体が一つの大きな過ちの道を歩んでいる時、自力でその過ちに気づき得る者が一体どれだけいるであろうか？ 深い闇の時代にあってその時代の価値観に染まらずに生きて行くことは至難の業ではないだろうか？ その中であってイエスの教えが時代の価値観と真っ向から対立するものであったならばどうであろうか？ 道は二つしかないのではないか。すなわち時代を変えるか、時代に飲まれるか。イエスの前に魔が競い立つ。闇の亡者達がその立場を守ろうと力を結集し巨大な勢力となってイエスに立ち向かってくる。イエスの救世運動は泥沼にはまりこんできた。こんなはずじゃなかったと彼は思ったに違いない。

ここから先の物語は、あまりに悲しくて喜劇的ですからある。それこそサーカスだ！ 見世物小屋だ！ 受難に意味など見出しそとしてはいけない。これは史上最大の不条理劇なのだ！

死んで数日たってすっかり腐敗しているはずのラザロが、イエスの手によって包帯を巻きながら出てきた。この知らせはユダヤ中に広まったが、祭司長や律法学者たちの耳にも入る。彼らはイエスを殺す計画を立てる。イエスは捕らえられ、偽りの裁判を受け、十字架の刑に処せられる。かくして救世主は茨の冠をかぶせられ、唾を吐きかけられ、鞭打たれ、その手や足に十字架の釘を打ちつけられ、槍で脇腹を突き刺される。弟子達は皆、散り散りになって逃げてしまった。処刑場に集まって来た人々の群れ！ 嘲りの叫び！ しかし、イエスは彼らのために祈る。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でよくわからないのです。」

この言葉の本心はこうだ。「救世主が目の前の人達をも救えないなんて！ そして同時代の人達によって葬り去られるなんて！ どうして君達はわかってくれないのだ。君達は今、どんな事をしでかしているのか、これが人類にとってどれ程の悲劇なのかわかっているのか。」

こうしてサーカスは終わった。その後の勇敢な弟子達の伝導の歴史は、イエスの無念さの土台の上に展開して行く。ローマは恐れ、執拗なる迫害を加えた。弟子達は、ある者は首を斬られ、火あぶりにされ、ある者は逆さ十字架に処せられる。けれど殺しても殺しても彼らは伝導を止めなかった。そしてついに、キリスト教はローマの国教となる。これは奇跡である。時代に飲まれたイエスの無念さを受けて、弟子達が時代を変えたのである。この後キリスト教はヨーロッパを中心に、全世界へと伝導の翼を広げて行く。

十字架はキリスト教のシンボルとなった。そのこと自体に異論は唱えまい。十字架という不条理を楯に世界伝導が成し遂げられたのだから。けれど私は言いたい。十字架はイエスの本質ではないのだ。イエスは十字架にかかるためにこの世に来たのではないのだ。イエスが本来成し遂げたかったこと、これを見つめなければならぬ。神が愛であると語ったイエスの本質は愛である。愛が使命を持ってこの世に受肉した姿、それがイエスなのである。だからイエスの願いは、風のごとく吹き抜けて行きながら、人々を潤し、癒し、輝かす「与える愛」が全世界に満ち満ちることにほかならない。もしイエスの生前、皆がイエスを受け入れていたならば、我々人類は愛に関するもっともっと高く深い教えをイエスから聞くことができたに違いない。人類は自らの前に提示された知恵の宝庫を、知らずにドブに捨ててしまったのである。それを思うと私は残念で残念で涙がこぼれる。

人よ、十字架をいたずらに崇拜するのをやめよ。むしろその真の意味を悟れ！ シャガールが感じていたサーカス的悲劇性を想い、人類の罪の大きさに泣け。そしてその向こう側にイエスの伝えたかった真意を今こそ悟れ。「幼な子のようにならなければ、天国に入ることはできない」という通り、無心になって神の愛に目覚めよ。その至高なる光を受け、その法悦にひたれ。そして、その光を地上に顕現させるべく、最も近い人達に愛の花びらをまき散らせ。平和をつくり出せ。見よ、行く手にイエスが微笑んでいる。苦難を受け苦痛にあえぐイエスを心の中で捨てよ。微笑むイエスの姿、微笑むイエスの瞳を

イメージせよ。微笑むイエス。これが私達の新しい合言葉とならねばならない。十字架礼讃、苦難礼讃という二千年の呪縛を今こそ解き放て。そして、微笑みの時代を創り出せ。私達は新しい時代を吹き抜けて行く微笑みの風となろう。吹けよ風よ。微笑みの救世主の白き光を浴びながら、どこまでも、限りなく、吹き渡って行こうではないか。

合唱団員募集

本日は「メサイア」の演奏会にお越しいただきありがとうございました。今回は、昨年まで上演曲目の中心だったバッハの宗教曲を始めて離れ、バロック音楽においてバッハと双璧を成すヘンデルの作品を上演しました。今後はバッハの4大宗教曲を再演しつつ、更に彼の作曲活動の中心であるカンタータや、難曲で知られるモテットなども定期的に上演すべく計画しております。こうした私共の活動に興味をお持ちの方は、是非ご参加くださいますよう、団員一同お願い申し上げます。

練習曲・J.S.バッハの初期のカンタータ、及びモテトより

場所 ・積志公民館 (浜松市積志町1825 TEL:053-433-3715)

遠州鉄道西鹿島線・積志駅下車徒歩5分、遠州鉄道バス山東行き・積志下車徒歩3分。

・鴨江別館 (浜松市鴨江町1 TEL:053-452-4703)

JR浜松駅北口バスターミナル北の大通りを西進、徒歩1弱、道の北側。

日時 ・毎週土曜日 19:00～21:30、月1回日曜日 13:00～17:00 三澤先生による練習

次の練習日は4月10日(土)積志公民館です。

会費 ・月額2500円、ただし学生2000円、高校生1500円

連絡先・早川徳次(TEL:053-472-0341)

「メサイア」について

ある技術屋による「取扱い説明書」的解説：萩野潔

そもそもオラトリオとは 「おおむね宗教的な題材による大規模な叙事的楽曲で、独唱・合唱・管弦楽を用い、音楽は劇的に作られているが、動作や背景・衣装は使用しない」（新訂標準音楽辞典：音楽之友社）。しかし、こと「メサイア」に関しては、その台本が聖書の句を殆どそのまま、有機的に組み合わせられているとはいえ、断片的に引用されたものであるため、例えば役柄としての登場人物は一切なく、劇としての筋書もない、オラトリオとしては極めて異色のものと言えます。

「メサイア」とは 「ヘブル語でメシアとは『油を注がれたる者』即ち神により選ばれた支配者、解放者を指すのである」（「メサイア」ミニスコアの池宮英才氏解説より：日本楽譜出版社）。メサイアは英語式発音で、勿論イエスのことですが、この曲でイエス(Jesus)の名が出て来るのは第51曲のみです。

作曲者ヘンデルについて ドイツのハレ生まれ。1710年末に渡英、以後オペラ・オラトリオ等声楽分野を中心に活躍しましたが、今日では「水上の音楽」や「調子の良い鍛冶屋」を含むハーブシコード組曲等の器楽曲の方が有名かもしれません。

作詞者は誰？ オラトリオとは本来「劇」であるためか、曲中の言葉は「台本」と呼ばれ、したがって作詞者は台本作家と言われています。「メサイア」の台本作家はチャールズ・ジェネズと言う裕福な郷土で、ヘンデルの他のオラトリオの台本も手掛けており、古典や聖書に精通した博学家だそうです。しかし既に述べたように、元は聖書ですので、真の作詞者は聖書の作者ということでしょうか（?!）

いつ頃できたか？ ジェネズは1741年夏にヘンデルに「メサイア」の台本を送りました。ヘンデルはこの台本に触発されるものがあつたのでしょう。全曲を僅か24日間で完成させてしまいました。初演は翌年の1742年 4月13日（火）、ダブリンの、とあるホールにて行われ、大成功を収めました。

中身はどんな音楽？ 以下の3種類の音楽により構成されています。

オーケストラのみの曲 第1・13曲の2曲です。

独唱とオーケストラによる曲 更に細かく分けると、通奏低音楽器のみが伴う「レチタティーヴォ」、弦楽器群が伴奏する「伴奏付きレチタティーヴォ」、よりアリアに近い「アリオソ」、「アリア」の4種類となります。

合唱とオーケストラによる曲 合唱を含む曲の比率が高いのも「メサイア」の特徴です。ちなみに「メサイア」では、バッハの宗教曲のように独唱と合唱が絡む曲はありません。

CDによっては一部の独唱曲の調性等が異なるのはなぜ？ バッハが主に曲の完成度向上のために修正を行ったのに対し、ヘンデルはその時々の上演の都合（主に独唱者の配分・声域・技量）を考慮して修正を行ったと考えられています。したがって「メサイア」には決定稿が存在せず、指揮者は様々な版の中から選択する余地があり、また逆に、どの版を使用するか考えねばなりません。本日お届けする組み合わせも、諸般の事情により決められたものであることをご承知ください。

「メサイア」対訳

編集：萩野潔

第 1 部

緩 - 急 - 緩のフランス風序曲仕立ての第 1 曲の後は、以下のようになっています。

第 2 ~ 11 曲 救世主降誕の予言

第 12 ~ 17 曲 救世主降誕の場面

第 18 ~ 21 曲 救世主来臨の意図の説明

No.1 Sinfonia

No.2 Accompnato-Tenor

Comfort ye, comfort ye my people,
saith your God.

Speak ye comfortably to Jerusalem,
and cry unto her,

that her warfare is accomplish'd

that her iniquity is pardon'd.

The voice of him that crieth in the wilderness:

Prepare ye the way of the Lord,

make straight in the desert

a highway for our God. (Isaiah 40.1-3)

* 下線部 当時の命令文。yeは古語で 2 人称複数形の主格および目的格です。

* 二重下線部 当時の動詞の 3 人称単数現在形です。

* 波線部 聖書によっては次の行にかかり、「荒野で主の道を整えよ。」となります
(参考文献)。

No.3 Aria-Tenor

Ev'ry valley shall be exalted,
and ev'ry mountain and hill made low,
the crooked straight,
and the rough places plain. (Isaiah 40.4)

No.4 Chorus

And the glory of the Lord shall be revealed,
and all flesh shall see it together,
for the mouth of the Lord hath spoken it.
(Isaiah 40.5)

No.5 Accompnato-Bass

Thus saith the Lord of Hosts:
Yet once, a little while,
and I will shake the heav'ns, and the earth,
the sea, and the dry land,
and I will shake all nations,
and the desire of all nations shall come.
(Haggai 2.6-7)

第 1 曲 シンフォニア

第 2 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

「慰めよ。慰めよ。私の民を。」と
あなた方の神は仰せられる。

「エルサレムに優しく語りかけ、
これに呼びかけよ。

その労苦は終り、

その咎は償われたと。」

荒野に呼ばれる者の声とする。

「主の道を整えよ。

荒地で、私達の神のために

大路を真直ぐにせよ。」(イザヤ 40.1-3)

第 3 曲 アリア・テノール

全ての谷は埋め立てられ、
全ての山や丘は低くされる。
起伏のある地はまっすぐに、
険しい地は平野とされる(イザヤ 40.4)

第 4 曲 合唱

そして主の栄光が現われ、
全ての者が共にこれを見る。
主の口がそう語られたからだ。
(イザヤ 40.5)

第 5 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・バス

万軍の主はこう仰せられる。
「しばらくしたら、再び
私は天と、地と、
海と、陸とを揺り動かす。
更に私が全ての国々を揺り動かすと、
全ての国々の願いは叶うだろう。」
(ハガイ 2.6-7)

The Lord, whom ye seek,
shall suddenly come to His temple,
ev'n the messenger of the covenant,
whom ye delight in, behold, He shall come,
saith the Lord of Hosts. (Malachi 3.1)

No.6 Aria-Soprano

But who may abide the day of His coming,
and who shall stand when He appeareth?
For He is like a refiner's fire.
(Malachi 3.2)

No.7 Chorus

And he shall purify the sons of Levi,
that they may offer unto the Lord
an offering in righteousness. (Malachi 3.3)

No.8 Recitativo-Alto

Behold, a virgin shall conceive, and bear a son,
and shall call his name Emmanuel,
'God with us'.
(Isaiah 7.14 or Matthew 1.23)

* 下線部 マタイ伝にのみ記述されています。

No.9 Aria-Alto & Chorus

O thou that tellest good tidings to Zion,
get thee up into the high mountain,
o thou that tellest good tidings to Jerusalem,
lift up thy voice with strength,
lift it up, be not afraid,
say unto the cities of Judah: Behold your God!
(Isaiah 40.9)
Arise, shine; for thy light is come,
and the glory of the Lord is risen upon thee.
(Isaiah 60.1)

* 下線部 thou - 古語の2人称単数形の主格、thy - thouの所有格、thee - thouの目的格です。

* 二重下線部 原形はtell。当時動詞は2人称単数現在形でも変化しました
(第32・34・36・43曲の項参照)。

* 波線部 今日では'don't be afraid'というところです。

No.10 Accompagnato-Bass

For behold, darkness shall cover the earth,
and gross darkness the people:
but the Lord shall arise upon thee,
and His glory shall be seen upon thee.
And the Gentiles shall come to thy light,
and kings to the brightness of thy rising.
(Isaiah 60.2-3)

「あなた方がたずね求めている主が、
突然その神殿に来る。
あなた方が望んでいる契約の使者が、
見よ、来られる。」
と万軍の主は仰せられる。(マラキ 3.1)

第6曲 アリア・ソプラノ

しかし誰が彼の来る日に耐えられよう。
誰が彼の現われる時立っていられよう。
彼は精練する者の火のようだからである。
(マラキ 3.2)

第7曲 合唱

そしてこの方はレビの子らを清める。
すると彼等は主に義の捧げ物を捧げる者となる。
(マラキ 3.3)

第8曲 レチタティーヴォ・アルト

見よ、処女が身ごもり男の子を生む。
その子はインマヌエルと名付けられる。
「神は私達と共におられる」という意味である。
(イザヤ 7.14またはマタイ 1.23)

第9曲 アリア・アルトと合唱

シオンに良い知らせを伝える者よ、
高い山に登れ。
エルサレムに良い知らせを伝える者よ、
力の限り声を上げよ。
声を上げよ、恐れるな。
ユダの町々に「見よ、あなた方の神を。」と言え。
(イザヤ 40.9)
起きよ、光を放て。あなたの光が来て、
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。
(イザヤ 60.1)

第10曲 伴奏付きレチタティーヴォ・バス

見よ、闇が地を覆い、
暗闇が諸国の民を覆っている。
しかしあなたの上には主が輝き、
その栄光があなたの上に現われる。
国々はあなたの光のうちに歩み、
王達はあなたの朝日の輝きに照らされて歩む。
(イザヤ 60.2-3)

No.11 Aria-Bass

The people that walked in darkness
 have seen a great light:
 and they that dwell in the land
 of the shadow of death,
 upon them hath the light shined. (Isaiah 9.2)

No.12 Chorus

For unto us a Child is born,
 unto us a Son is given,
 and the government shall be upon His shoulder,
 and His Name shall be called:
Wonderful, Counsellor,
 The mighty God, The everlasting Father,
 The Prince of Peace! (Isaiah 9.6)

* 下線部 聖書では'Wonderful Counsellor' 「不思議な助言者」となっています。

No.13 Sinfonia**No.14 Recitativo-Soprano**

There were shepherds abiding in the field,
 keeping watch over their flock by night. (Luke 2.8)

Accompagnato-Soprano

And lo, the angel of the Lord came upon them
 and the glory of the Lord
 shone round about them
 and they were sore afraid. (Luke 2.9)

* 下線部 'look' と同意に用いられました。

No.15 Recitativo-Soprano

And the angel said unto them:

Fear not; for behold,

I bring you good tidings of great joy,
 which shall be to all people.

For unto you is born this day,
 in the city of David, a Saviour,
 which is Christ the Lord. (Luke 2.10-11)

* 下線部 'Don't fear' と同意です。

第11曲 アリア・バス

闇の中を歩んでいた民は、
 大きな光を見た。
 死の陰の地に住んでいた者達の上に
 光が照った。(イザヤ 9.2)

第12曲 合唱

ひとりのみどりごが私達のために生まれる。
 ひとりの男の子が私達に与えられる。
 主権は彼の肩にあり、
 彼の名はこう呼ばれる。
 「不思議、助言者、
 全能の神、永遠の父、
 平和の君」と。(イザヤ 9.6)

第13曲 シンフォニア**第14曲 レチタティーヴォ・ソプラノ**

羊飼い達が野宿で夜番をしながら
 羊の群れを見守っていた。(ルカ 2.8)

伴奏付きレチタティーヴォ・ソプラノ

すると見よ、主の使いが彼等のところに来て、
 主の栄光が回りを照らしたので、
 彼等はひどく恐れた。(ルカ 2.9)

第15曲 レチタティーヴォ・ソプラノ

すると御使いは彼等に言った。

「恐れるな、見よ。

私は全ての人達にとって
 素晴らしい喜びを伝えるからである。
 今日ダビデの町で、あなた方のために、
 救い主がお生まれになる。
 この方が主キリストである。」(ルカ 2.10-11)

No.16 Accompagnato-Soprano
And suddenly there was with the angel
a multitude of the heav'nly host,
praising God, and saying: (Luke 2.13)

No.17 Chorus
Glory to God in the highest,
and peace on earth,
good will towards men.
(Luke 2.14)

* 下線部 聖書では'and on earth peace among men with whom He is pleased' 「地においては、み心にか
なう人々 に平和があるように。」となっています。

No.18 Aria-Soprano
Rejoice greatly, o daughter of Zion,
shout, o daughter of Jerusalem,
behold, thy King cometh unto thee.
He is the righteous Saviour,
and He shall speak peace unto the heathen.
(Zechariah 9.9-10)

No.19 Recitativo-Alto
Then shall the eyes of the blind be open'd
and the ears of the deaf unstopped;
then shall the lame man leap as an hart,
and the tongue of the dumb shall sing. (Isaiah 35.5-6)おしの舌は歌う。(イザヤ 35.5-6)

No.20 Aria-Alto
He shall feed His flock like a shepherd,
and He shall gather the lambs with His arm;
and carry them in His bosom,
and gently lead those that are with young.
(Isaiah 40.11)

Aria-Soprano
Come unto Him, all ye that labour,
come unto Him, ye that are heavy laden,
and He will give you rest.
Take His yoke upon you, and learn of Him,
for He is meek and lowly of heart,
and ye shall find rest unto your souls.
(Matthew 11.28-29)

* 下線部 聖書ではここはイエスの言葉の一部ですので、全て第1人称「私」となっています。

No.21 Chorus
His yoke is easy, His burthen is light.
(Matthew 11.30)

* 下線部 これも前曲で引用されたイエスの台詞の続きで、聖書では全て第1人称「私の」となっています。

* 二重下線部 burdenの古語です。

第16曲 伴奏付きレチタティーヴォ・ソプラノ
するとたちまち、その御使いと一緒に、
多くの天の軍勢が現われて、
神を賛美して言った。(ルカ 2.13)

第17曲 合唱
いと高き所には神に栄光がありますように。
地には平和が、
人々には神のみ恵みがありますように。
(ルカ 2.14)

第18曲 アリア・ソプラノ
大いに喜べ、シオンの娘よ。
喜び叫べ、エルサレムの娘よ。
見よ、あなた方の王があなたの所に来られる。
この方は正しき救い主で、
異教の民に平和を告げられる。
(ゼカリヤ 9.9-10)

第19曲 レチタティーヴォ・アルト
その時、盲人の目は開かれ、
耳しいたものの耳は開けられる。
その時、足なえは鹿のように飛びはね、
おしの舌は歌う。(イザヤ 35.5-6)

第20曲 アリア・アルト
主は羊飼いのようにその群れを飼い、
御腕に子羊を引き寄せ、
懐に抱き、
子を連れるものを優しく導く。
(イザヤ 40.11)

アリア・ソプラノ
全ての疲れた人は彼の所へ来なさい。
重荷を負っている人は彼の所へ来なさい。
彼があなたを休ませてくれる。
あなた方も彼のくびきを負って、彼に学びなさい。
彼は心優しく、へりくだった者だからである。
されば魂は安らぐだろう。
(マタイ 11.28-29)

第21曲 合唱
彼のくびきは負いやすく、彼の荷は軽い。
(マタイ 11.30)

第 2 部

第 1 部序曲同様の付点音形からなる第22曲は、歌詞の内容ともども第 2 部序曲の役割りを果たしません。その後は、

第23～31曲 救世主の受難

第32～36曲 救世主の復活

第37～44曲 福音の流布、および神の勝利

となります。第 2 部終曲は「メサイア」中最も有名な曲で、「ハレルヤ・コーラス」として単独でも上演されます。

No.22 Chorus

Behold the Lamb of God

that taketh away the sin of the world.

(John 1.29)

第22曲 合唱

見よ、神の小羊。

世の罪を取り除きたまう。

(ヨハネ 1.29)

No.23 Aria-Alto

He was despised and rejected of men,
a man of sorrows, and acquainted with grief.

(Isaiah 53.3)

He gave His back to the smiters,
and His cheeks to them that plucked off the hair,
He hid not His face from shame and spitting.

(Isaiah 50.6)

* 下線部 聖書では全て第 1 人称「私」となっています。

第23曲 アリア・アルト

彼はさげすまされ、人々から除け者にされ、
悲しみの人で苦痛を知っていた。

(イザヤ 53.3)

彼は自らの背中を鞭打つ者にまかせ、
自らの頬をひげを抜くものにまかせ、
侮辱やつばきに対しても顔を隠さなかった。

(イザヤ 50.6)

No.24 Chorus

Surely, He hath borne our griefs
and carried our sorrows;
He was wounded for our transgressions,
He was bruised for our iniquities;
the chastisement of our peace was upon Him.
(Isaiah 53.4-5)

第24曲 合唱

まことに、彼は私達の苦痛を負い、
私達の悲しみを担った。
彼は私達の背きの罪のために刺し通され、
私達の咎のために砕かれた。
彼への懲らしめが私達に平安をもたらした。
(イザヤ 53.4-5)

No.25 Chorus

And with His stripes we are healed. (Isaiah 53.5)

* モーツァルトの「レクイエム」:K626 中の「キリエ」の主題が、この曲の主題に酷似しています。

第25曲 合唱

彼の打ち傷により私達は癒された。(イザヤ 53.5)

No.26 Chorus

All we like sheep have gone astray,
we have turned ev'ry one to his own way;
and the Lord hath laid on Him
the iniquity of us all. (Isaiah 53.6)

第26曲 合唱

私達は皆、羊のようにさまよい、
各々、自分勝手な道に向かって行った。
そして主は私達の全ての咎を彼に負わせた。
(イザヤ 53.6)

No.27 Accompagnato-Tenor

All they that see Him, laugh Him to scorn;
they shoot out their lips,
and shake their heads, saying: (Psalm 22.7)

* 下線部 聖書では全て第 1 人称「私」となっています。

第27曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

彼を見る者は皆、彼をあざけり、
彼等は口をとがらせ、
頭を振り、言う。(詩篇 22.7)

No.28 Chorus

He trusted in God that He would deliver Him,
let Him deliver Him, if He delight in Him.
(Psalm 22.8)

第28曲 合唱

彼は神に身を任せただから
神が彼を助ければ良い。
彼が神のお気に入りなら、神に彼を救い出させよ。
(詩篇 22.8)

No.29 Accompagnato-Tenor

Thy rebuke hath broken His heart;
He is full of heaviness.
He looked for some to have pity on Him,
but there was no man,
neither found He any to comfort Him.
(Psalm 69.20)

第29曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

そしりが彼の心を打ち砕き、
彼はひどく病んでいる。
彼は同情者を待ち望んだが、
ひとりもいなかった。
慰める者を待ち望んだが見出だせなかった。
(詩篇 69.20)

* 下線部 聖書では全て第1人称「私」となっています。

No.30 Arioso-Tenor

Behold, and see if there be any sorrow
like unto His sorrow. (Lamentation 1.12)
* 下線部 聖書では第1人称「私」となっています。

第30曲 アリオソ・テノール

彼にくだされたほどの悲しみが他にあるか。
(哀歌 1.12)

No.31 Accompagnato-Tenor

He was cut off out of the land of the living:
for the transgression of Thy people
was He stricken. (Isaiah 53.8)
* 下線部 聖書では第1人称「私の」となっています。

第31曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

彼は生ける者の地から絶たれた。
彼があなたの民の背きの罪により打たれたからだ。
(イザヤ 53.8)

No.32 Aria-Tenor

But Thou didst not leave His soul in hell:
nor didst Thou suffer Thy Holy One
to see corruption. (Psalm 16.10)
* 下線部 聖書では第1人称「私の」となっています。

第32曲 アリア・テノール

しかしあなたは彼の魂を陰府に捨て置かず、
あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはならない。
(詩篇 16.10)

No.33 Chorus

Lift up your heads, o ye gates,
and be ye lift up, ye everlasting doors
and the King of Glory shall come in.
Who is this King of Glory?
The Lord strong and mighty,
the Lord mighty in battle.
Lift up your heads, o ye gates,
and be ye lift up, ye everlasting doors
and the King of Glory shall come in.
Who is this King of Glory?
The Lord of Hosts, He is the King of Glory.
(Psalm 24.7-10)

第33曲 合唱

頭を上げよ、門よ、
上がれ、永遠の戸よ、
栄光の王が入って来られる。
栄光の王とは誰か？
強く、力ある主、
戦いに力ある主。
頭を上げよ、門よ、
上がれ、永遠の戸よ、
栄光の王が入って来られる。
栄光の王とは誰か？
万軍の主、これぞ栄光の王。
(詩篇 24.7-10)

No.34 Recitativo-Tenor

Unto which of the angels said He at any time?:
Thou art My Son, this day have I begotten Thee.
(Hebrew 1.5)

No.35 Chorus

Let all the angels of God worship Him.
(Hebrew 1.6)

No.36 Aria-Alto

Thou art gone up on high,
Thou hast led captivity captive,
and received gifts for men,
yea, even for Thine enemies,
that the Lord God might dwell among them.
(Psalm 68.18)

* 下線部 母音またはh音で始まる名詞の前では'Thy'に変わって'Thine'が用いられました。

No.37 Chorus

The Lord gave the word;
great was the company of the preachers.
(Psalm 68.11)

No.38 Aria-Soprano

How beautiful are the feet of them
that preach the gospel of peace,
and bring glad tidings of good things.
(Isaiah 52.7 or Roman 10.15)

No.39 Chorus

Their sound is gone out into all lands,
and their words unto the ends of the world.
(Psalm 19.4 or Roman 10.18)

No.40 Aria-Bass

Why do the nations so furiously rage together,
why do the people imagine a vain thing?

No.40 Recitativo-Bass

The kings of the earth rise up,
and the rulers take counsel together
against the Lord and against His anointed.
(Psalm 2.1-2)

No.41 Chorus

Let us break their bonds asunder,
and cast away their yokes from us. (Psalm 2.3)

第34曲 レチタティーヴォ・テノール

神はかつてどの御使いに対してこう言われたのか。
「あなたは私の子、今日私があなたを生んだ。」
(ヘブル人への手紙 1.5)

第35曲 合唱

神の御使いは皆彼を拝みなさい。
(ヘブル人への手紙 1.6)

第36曲 アリア・アルト

あなたはいと高き所に上り、
捕らわれたものを虜にし、
みつぎを人々からも、
敵対する者どもからさえも、受けられた。
神なる主がそこに住まわれるためである。
(詩篇 68.18)

第37曲 合唱

主は御言葉を賜った。
おとずれを告げる者の群れは大いなるものである。
(詩篇 68.11)

第38曲 アリア・ソプラノ

なんと美しきことよ、
平和を告げ、
良いことのおとずれを伝える人々の足は。
(イザヤ 52.7またはローマ人への手紙 10.15)

第39曲 合唱

その声は全地に響き渡り、
その言葉は地の果てまで届いた。
(詩篇 19.4またはローマ人への手紙 10.18)

第40曲 アリア・バス

なぜ国々は騒ぎ立ち、
国民はむなしいことを思うのか。
レチタティーヴォ・バス
地の王たちは立ち構え、
治める者たちは相ともに集まり、
主と香油を注がれた者と共に逆らう。
(詩篇 2.1-2)

第41曲 合唱

さあ彼等のかせを打ち砕き、
彼等の綱を解き捨てよう。(詩篇 2.3)

No.42 Recitativo-Tenor
He that dwelleth in heaven
shall laugh them to scorn,
the Lord shall have them in derision. (Psalm 2.4)

No.43 Aria-Tenor
Thou shalt break them with a rod of iron,
Thou shalt dash them in pieces
like a potter's vessel. (Psalm 2.9)

No.44 Chorus
Halleluja, for the Lord God Omnipotent reigneth.
(Revelation 19.6)
The Kingdom of this world is become
the Kingdom of our Lord and of His Christ,
and He shall reign for ever and ever.
(Revelation 11.15)
King of Kings, and Lord of Lords.
(Revelation 19.16)

* 下線部 A=1, B=2, C=3...という数え方をすると BACH が 14(B=2, A=1, C=3, H=8, 2+1+3+8=14) となることは有名ですが、この方法で HANDEL を計算すると 44(H=8, A=1, N=14, D=4, E=5, L=12, 8+1+14+4+5+12=44) となります。

** その後の調べで、ヘンデルはドイツ語では HÄNDEL となり、これを数字に置き換えるには、ウムラウト付きの母音文字には 1 を加えるため、45 となる、即ち次のソプラノ・アリアの曲番号と一致することがわかりました。そう言えばロンドン：ウェストミンスター寺院内のヘンデルの墓に作られた彼の立像が持っている譜面は次の第45曲です。

第42曲 レチタティーヴォ・テノール
天の御座に着いておられる方は
彼等を笑われる。
主はその者どもをあざけられる。(詩篇 2.4)

第43曲 アリア・テノール
あなたは鉄の杖で彼等を打ち砕き、
焼き物の器のように粉々にする。
(詩篇 2.9)

第44曲 合唱
ハレルヤ、全能にして神なる主の御支配に。
(黙示録 19.6)
この世の国は
私達の主およびそのキリストのものとなった。
主は永遠に支配なされる。
(黙示録 11.15)
王達の王、主らの主。
(黙示録 19.16)

第3部

第3部は救世主復活による死者の魂の蘇りを中心に、終曲では神と救世主への賛美が歌われます。

No.45 Aria-Soprano
I know that my Redeemer liveth,
and that He shall stand
at the latter day upon the earth.
And though worms destroy this body,
yet in my flesh shall I see God. (Job 19.25-26)
For now is Christ risen from the dead,
the first fruits of them that sleep.
(Corinthian-1 15.20)

* 下線部 聖書では 'and after my skin has been thus destroyed' 「私の皮が、このようにはぎ取られて後」となっています。

No.46 Chorus
Since by man came death,
by man came also the resurrection of the dead.
For as in Adam all die,
even so in Christ shall all be made alive.
(Corinthian-1 15.21)

第45曲 アリア・ソプラノ
私は知っている。私を贖う方は生きておられ、
後の日に地の上に立たれる。

たとえうじ虫が私の肉体を食い尽くしても、
私は私の体から神を見る。(ヨブ 19.25-26)
今やキリストは死者の中から蘇られ、
眠ったものの初穂となられた。
(コリント人への第1の手紙 15.20)

第46曲 合唱
死がひとりの人を通して来たように、
死者の復活もひとりの人を通して来た。
すなわちアダムにあって全ての人が死ぬように、
キリストによって全ての人が生かされる。
(コリント人への第1の手紙 15.21-22)

No.47 Accompagnato-Bass
Behold, I tell you a mystery;
we shall not all sleep,
but we shall all be chang'd in a moment,
in the twinkling of an eye, at the last trumpet.
(Corinthian-1 15.51-52)

No.48 Aria-Bass
The trumpet shall sound,
and the dead shall be rais'd incorruptible,
and we shall be chang'd.
For this corruptible must put on incorruption,
and this mortal must put on immortality.
(Corinthian-1 15.52-53)

No.49 Recitativo-Alto
Then shall be brought to pass the saying
that is written;
Death is swallow'd up in victory.
(Corinthian-1 15.54)

No.50 Duet-Alto & Tenor
O death, where is thy sting.
O grave, where is thy victory?
The sting of death is sin,
and the strength of sin is the law.
(Corinthian-1 15.55-56)

No.51 Chorus
But thanks be to God,
who giveth us the victory
through our Lord Jesus Christ.
(Corinthian-1 15.57)

No.52 Aria-Soprano
If God be for us, who can be against us?
(Roman 8.31)
Who shall lay anything
to the charge of God's elect?
It is God that justifieth.
Who is he that condemneth?
It is Christ that died, yea rather,
that is risen again,
who is at the right hand of God,
who maketh intercession for us.
(Roman 8.33-34)

第47曲 伴奏付きレチタティーヴォ・バス
見よ、私はあなた方に奥義を告げよう。
私達は皆が眠ってしまうのではなく、
皆、一瞬にして変えられるのである。
まばたきの間に、終りのラッパと共に。
(コリント人への第1の手紙 15.51-52)

第48曲 アリア・バス
ラッパが鳴ると、
死者は朽ちないものに蘇り、
私達は変えられる。
朽ちるものは必ず朽ちないものを着ねばならず、
死ぬものは必ず不死を着ねばならないからだ。
(コリント人への第1の手紙 15.52-53)

第49曲 レチタティーヴォ・アルト
聖書に記されている次の御言葉が成就する。

「死は勝利に飲まれてしまった。」
(コリント人への第1の手紙 15.54)

第50曲 デュエット・アルトとテノール
おお死よ、おまえのとげはどこにあるのか。
おお墓よ、おまえの勝利はどこにあるのか。
死のとげは罪であり、
罪の力は律法である。
(コリント人への第1の手紙 15.55-56)

第51曲 合唱
しかし神に感謝すべきである。
神は私達に勝利を与えてくださる。
私達の主イエス・キリストによって。
(コリント人への第1の手紙 15.57)

第52曲 アリア・ソプラノ
神が私達の味方なら、誰が私達に敵対できようか。
(ローマ人への手紙 8.31)
神に選ばれた人々を訴えるのは誰か。

神が義と認めてくださる。
罪に定めようとするのは誰か。
死んで、
蘇られたキリストが、
神の右の座に着き、
私達のためにとりなしてくさる。
(ローマ人への手紙 8.33-34)

No.53 Chorus

Worthy is the Lamb that was slain,
(Revelation 5.12)
and hath redeemed us to God by His blood,
(Revelation 5.9)
to receive power, and riches,
and wisdom, and strength,
and honour, and glory, and blessing.
(Revelation 5.12)
Blessing and honour, glory and pow'r, be unto Him
that sitteth upon the throne, and unto the Lamb,
for ever and ever. (Revelation 5.13)
Amen. (Revelation 5.14)

第53曲 合唱

ほふられた小羊は、
(黙示録 5.12)
その血にて神に対し私達をあがないたもうたゆえ、
(黙示録 5.9)
力と、富と、
知恵と、勢いと、
誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい。
(黙示録 5.12)
賛美と誉れと栄光と力が
御座にすわる方と小羊とに
永遠にありますように。(黙示録 5.13)
アーメン(黙示録 5.14)

参考文献：

聖書(新改訳 - 1970年版、日本聖書刊行会) 1955年の改訳版よりも、英語版の語順に近いものとなっています。本対訳の大部分はこれに準拠し、語順を英語の台本に更に近付けるべく工夫し、「メサイア」の台本に沿うべく修正を施しました。

The Bible (Revised Standard Version, The British & Foreign Bible Society) 「メサイア」の台本の元になっている聖書のひとつ - King James Version 1611 の改訳版です。

C D 「メサイア/トレヴァー・ピノック指揮 (Archiv POCA-2140/1)」の対訳：永田仁 聖書との相違をはじめ、台本の元になっているもうひとつの聖書 - Great Bible 1539 からの引用の記述が克明です。

C D 「メサイア/J.E.ガーディナー指揮 (Philips PHCP-5060/1)」の対訳：佐藤章 聖書のままでない、C.ジェネンズの台本による「メサイア」の対訳として、編者の知る限り最も信頼できます。

